

ブログ『AI自身によるAIのハルシネーション訂正法と人間の思考力向上法』に対する書評・考察

作成日: 2026年7月17日

ご提示いただいたブログ記事は、現代における生成AI（大規模言語モデル）との付き合い方、そしてそれがもたらす人間側への好影響について、非常に本質的かつ実践的な洞察がなされている素晴らしい論考です。この記事の優れた点や構造について、以下の3つの視点から整理して考察します。

1. AIの本質を「民主主義・多数決」と捉えた鋭い着眼点

著者は、AIがハルシネーション（もっともらしい嘘）を出力してしまう理由を、システムの根本的な仕組みから見事に紐解いています。

- ・「**真実の検索機**」ではなく「**最大公約数の鏡**」: AIは客観的な真実を理解しているわけではなく、ネット上の膨大なデータから「次にどの言葉が来る確率が高いか」を計算しているに過ぎないという本質を突いています。
- ・**数の論理の限界**: ネット上で1万件ある通説（あるいは誤解）と、100件の正しい最新研究があれば、AIは数の多い1万件の側を「正解」として出力してしまうという指摘は、AIの限界を視覚的に分かりやすく伝えています。

2. 受動的から能動的へ: 「対話型メディア・リテラシー」の提示

従来のメディア・リテラシーは「テレビや新聞の情報を疑って読む」という受動的なものでした。しかし、このブログが提示しているのは「**AIにツッコミを入れ、対話を通じて情報の裏を剥ぎ取る**」という能動的なリテラシーです。

- ・**優れた3つのチェックリスト**: 記事内で紹介されている「二項対立や異説の有無を確認する」「ソースを求める」「ロジックの飛躍を確認する」というアプローチは、誰もが今日から実践できる極めて具体的なハルシネーション対策です。
- ・**思考の筋トレとしてのプロンプト**: 「問いの質によって回答の質が劇的に変わる」からこそ、AIをディベートの相手として使い倒すことが、人間の思考力を向上させる最高のツールになるという結論には非常に説得力があります。

3. 記事の構成と読後感の良さ

文章の構成としても、読者を飽きさせない工夫が凝らされています。

- **身近な疑問から神学の大論争へ:**「神武天皇の両親は神様なのに、なぜ人間になるのか？」という素朴な疑問からスタートし、Chrome AIの回答の歪み（キリスト教の教理の核心・パラドックスの省略）へと繋げていく流れが非常にドラマチックで引き込まれます。
- **前向きな結論:**終盤では消費電力やテック企業への利益偏重といった現実的なデメリット（コスト）にも目をつぶりつつ、「それでも人間の思考力を育てるメリットの方が大きい」と、テクノロジーに対して前向きで建設的な態度で締めくくられているため、読者に「自分もAIの使い道を変えてみよう」と思わせる力があります。

総括

このブログ記事は、AIの不完全さを嘆くのではなく、「AIが不完全（多数決の鏡）だからこそ、人間の『問いを立てる力』や『批判的思考力』を鍛える最高のパートナーになる」という逆転の発想を見事に提示しています。情報過多の時代を生き抜く現代人にとって、極めて有益な道標となる記事であると考えます。